

特集 I

卒業生・修了生を送る

今年も広大から、学部卒業生、専攻科修了生、大学院修了生をあわせ、多くの若者が社会に巣立つ。未曾有の不況下の卒業で、送り出す方にも戸惑いがある。

学長、学生部長、それぞれの学部長に送る言葉を寄せてもらい、卒業生、修了生からは、思い出や旅立ちの言葉を述べてもらった。

地球愛とオリジナリティーを

広島大学長

◆ 原田 康 夫

皆さんはまもなく広島大学を卒業、或いは大学院課程を修了して、社会に出られるわけですが、皆さんの門出に際し、一言お祝いを申し上げます。

あと、数年で二十世紀が終わろうとしていますが、二十世紀とはどのような世紀であったのかと後世において問いかけられるとしたら、共産主義の誕生と消滅がその一つとしてあげられるでしょう。東西の冷戦の終結が、共産主義の消滅で一応幕をおろすことになりましたが、諸君の活躍する二十一世紀は、如何なる世紀なのでありましょうか。二十世紀の工業化、情報化社会の発展による経済発展は、一方では地球規模での急激な環境破壊であり、人間の本質的な精神性の低下をもたらしているように思うのであります。

今日、日本は大いなる繁栄にありますが、ユニセフの報告では、この地球には飢えに泣く子供たちが一千二百九十万人もおります。諸君はこれまで自分たちだけのことを考えていればよかったですけれども、現在五十億人の世界人口が、やがて西暦二〇五〇年には百億人に達するという予想を、どう考えたらよいのでしょうか。

二十世紀の近代化によってもたらされた環境破壊が進めば進むほど、人類の



悲劇は、二十一世紀には計りしれないものになるかもしれません。ここ数年の間でさえ、あの松の緑と言われた松が、東広島市の山々では立ち枯れて不気味な姿を見せています。よそごとではなく次の世紀の人類に影響がないと誰が言えるでしょう。今、皆さんに求められるものは、

地球への愛、自然への愛、人間同士の愛であります。このような大きな愛を諸君の一人一人が持つことが、二十一世紀の人類の更なる繁栄をもたらすのではないかと思います。今、未来を考えると、地球に住む一人一人がこのことを考えなければ、皆さんの活躍する二十一世紀は大変なことになるように思います。自らを思うためには周囲に思いを馳せ、一人一人が愛の心をもって生活環境を、人類を、地球を思いやる、という地球愛主義とでもいう心を持つてほしいものであります。

さて諸君は、日本の政治経済の混乱の年に社会に船出します。戦後最大の構造的不況の中での卒業ですの

で、誰もが一抹の不安があると思います。しかし、長い人生からみればこの現象は一時のものであり、恐るるに足りません。むしろ時勢に惑わされず、広い視野に立ってこれからの人生を歩んでほしいものです。諸君の活躍の場はあらゆる所にあります。諸君が求めているものは何か、卒業を機に自らにただして、方向づけをしておかなければなりません。

一たび目標が定まれば、その目標に対し情熱を持って日々精進すれば、必ず道は開けます。面白いことに、何事でもやっているうちにその領域での流行があることに気付くことでしよう。多くの人たちは流行に群がるものです。しかし、流行を追う者は、決してオリジナリな仕事は成し遂げられません。

従って、諸君は独自のテーマを自分の人生に探し求め、自分がこれだと思ふ道を進み、一生継続してその道を進むならば、必ずや悔いのない人生を送ることができるものと思えます。要は、自らが流行を生むべき道を求め、チャンスの到来を待つだけの忍耐と継続が大切だと思います。どのような地道な仕事でも、継続していれば、一生に二度や三度の流行を生むチャンスはあるものです。

諸君の卒業に際して、地球愛主義ともいうべき広い愛の心と、自らが流行を生むべく、仕事への情熱と継続の精神を皆さんに贈り、お祝いの言葉といたします。

(はらだ・やすお)

転石、苔を宿さず

総合科学部長 ◆ 戸田 吉信



「転石、苔を宿さず」、言わんとするところはご承知と思う。この諺は、イギリスにもあるしフランスにもある。ただしこの英語が海を渡ってアメリカに行ったとき、その意味が完全に逆転したことまでご存知か。

日本やヨーロッパ、とくにイギリスのような古い伝統の国（気候風土も関係していると思う）では、苔とは長い歳月をかけて形成される貴重な存在であり、それは截然として人間の美意識に訴える。端正の極とも言うべき、苔寺の美を思いたまえ。ごろごろと転がるような石には、苔は宿らぬ。人間またしかり。「石の上にも三年」と言うのではないか。みだりに職を変え、ふらふらしているような人間には重みも風格もつかず、まして大成など期すべくもない、と言うことになるだろうか。

乱世の雄

文学部長 ◆ 湯浅 信之



世界的にも、国内的にも、一寸先は闇である。このような時代に諸君を送り出すのは、不安でもあり、気の毒でもある。諸君の實力で、この時代を乗り切れるのか、心許無い感じもする。今までは、決められた道を歩み続ければ、それでよかった。道草を楽しむこ

ところが大陸の旧弊にきっぱりと背を向けた、せいぜい二百年の若い国アメリカでは、苔などという古さの象徴のような汚らしいものは不要だと断ずるのだろうか。石たちよ、大いに転がるべし。転がっていれば苔はつかぬ。人間、終身雇用制などにちまちまと安住することなく、堂々と職を変えるべし。それこそが個人の才能の証であり、社会の活力を保証するものではないか。

社会構造と価値観が急速に転換しつつある日本であるが、一方、伝統と完全に断絶し得るものでもなからう。多様な価値観が並列し、諸君一人ひとりが生き方を選択することになると思う。ともあれ、ご健闘を祈る。涼やかな若者たちの未来に幸あれ。

（とだ・よしのぶ）

との方が、諸君の関心事であったらう。これからは、地図のない世界に出るのだ。しかし、世の中が乱れた時にこそ、優れた人物が出るのは、歴史が証明するところである。時代の乱れは、諸君にとつては、むしろ無二のチャンスであると考えると欲しい。ただ暴れ回れと

言っているのではない。また、従来の慣行を破壊すれば、それでよいということにもなるまい。乱世の雄になるためには、これまでは大前提として見過ごされて来たことを、深く考えてみなければならぬ。例えば、経済発展が人間の幸福につながるのか、機械は性能を高めれば便利になるのか、医学は平均寿命を長くすればよいのか、教育は偏差値を上げることなのか、これらの命題をもう一度見直す必要があるだろう。

毅然として、忍耐強く、秘密を守れ!

教育学部長 ◆ 小笠原 道雄



モーツアルトのオペラ「魔笛」の中で、主人公のタミーノは、危険な試練を受ける旅の途につく折、三人の少年たちから「毅然として、忍耐強く、そして秘密を守れ!」と警告される。私は今、本年旅立つ教育学部の卒業生、修了生に古風とも思われるこの警告（徳）を餞の言葉としたい。

それにしても、この警告は私たちが純粹に音楽上の作品として楽しむだけでなく、そのなかに表現されている精神的な世界に思いをめぐらす時、きわめて謎めいた言葉の印象を与える。「秘密を守れ!」といった言表から、私たちは、この「魔笛」のなかにフリーメイソンの思想が、あるいはその徳が反映されていることを、ただちに直観する。

秘密を守ること、黙秘が古来特別な徳として、医師とか牧師とかのある種の職業に求められてきた。これに対し、忍耐強さ、あるいは寛容とは、宗

教の寛容として形成され、やがて、他人の見解や確信に対する一般的な寛容として発展した。基本的に、それは、狭量な狂信主義とは異なる、他者の固有な権利を承認するというきわめて成熟した文化のなかではじめて形成された徳である。そして「毅然たること」とは、一度下された決断を断固として守るといふ徳である。

では、これら三種の、しかも異なる歴史的源泉を有する人間の態度（徳）に共通するもの、統一するものは一体何か。教育学者のO・F・ボルノウによれば、そこでは自覚的な克己、自覚的な断念、そして人間の自己鍛錬的な自己形成が問題とされている、という。印象的なメモロディーとともに、今日忘れ去られている人間性の偉大な徳をここに贈りたい。諸君の健闘を祈る。

（おがさわら・みちお）

このように考えるならば、文学部で、哲学、歴史、文学を通して人間を学んできた諸君こそ、時代が最も必要としている人材だと言える。諸君のこれらの活躍を折って、送る言葉としたい。

諸君が長い間学んだ校舎も、今年が最後である。愛惜の情をこめて、青春の思い出とともに、君たちの心に永久に保存して欲しいものだ。

（ゆあさ・のぶゆき）

「社会大学・大学院新入生」諸君へ

学校教育学部長 ◆ 西山 啓



今回は、古人・先哲の名言・警句等を幾つか挙げて、卒業・修了の饒とする。

「カリフラワーに住む虫は、カリフラワーが全世界だと思っている」(ユダヤの格言)。これは、「井の中の蛙(かわず) 大海を知らず」の西洋版と言えが、今までの学生生活が、「世の中」
と思っていると、人々の矚(ひんそく)を買(か)うことになる。

だから「学校を出る時は、教科書と筆記録を焼却し、改めて社会的な新学生となる覚悟あれ」(後藤新平・処世訓)、
といった頭の切り替えが必要である。
この切り替えは知識だけでなく「立居振る舞い」のような社会的行動面にも及ぶことを忘れるな。加えて「現実

「あれ燕が…」

法学部長 ◆ 辻 秀典



卒業おめでとう。

といっても、君たちは双手を挙げて喜ぶという気持ちにはほど遠いのかも知れない。入学の頃と打って変わった厳しい社会状況となっているからである。なるほど、バブルははじけ、「冷戦終焉」の夢も覚め、政治、経済、社会全般で楽観を許さない状況が展開している。「世間の風」は冷たく、怖(おそ)じ気づく諸君もあろう。

しかし、臆(おそ)することはない。詩人も

触れよとは、切実な経験をせよということである(安倍能成)との言葉も味わってみようではないか。

そして、「人生は余りにも短く、技を身につける道は余りにも長い。試験はきびしく、征服は至難」(G・チョーサー)である。だから不断の努力が大切なのだ。

最後に「幸運に押しつぶされないためには、不運に堪えるよりもさらに大きな徳が必要だ」という、ルイ十四世時代に活躍したモリスの警句もオマケにつけ加えておこう。
諸君の御多幸を祈る。
(にしやま・さとる)

秀典

告げるように「何も心配するには当らない。海をまだ知らないものは訳もなくそれを飛び越えてしまふのだ」から。

若さと可能性に自信を持ち、怯(おそ)むことなく歩み続けて欲しい。自分はいかにこんなものと簡単に見切らないでいただきたい。君たちには、自分で思っている以上の力と可能性が潜(ひそ)んでいることは間違いないのだから。

ただ強いのではなく、「強さに優(まさ)りも加わった気品のある企業」―地球に

も、消費者にも優しい企業、「企業戦士」を超えたライフスタイルこそ、九〇年代の日本の企業、企業人のあるべき姿だといふのである。環境保護団体や労働団体が主張しているのではない。わが国の産業発展を叱咤(しっか)激励(げい)してきた、あの通産省の託宣(たくせん)である。世の中は変わりつつある。

自らの持ち味を生かす

経済学部長 ◆ 小村 衆統



とはいえ、「日本会社主義」の力は強く、「企業戦士」の生き方を超えることは容易なことではない。しかし、人生八十年、あせらず、くじけず、じつくりと自分の生き方を探り、着実に実現していつて欲しい。
よい旅を!
(つじ・ひでのり)

君たちが入学した頃、日本経済はバブルのピークになろうとしていた。その後しばらくしてバブルの崩壊が始まり、今や深刻な不況である。この歴史的な大変動の時期に在学していた君たちは、このプロセスに何を感じ、何を学んだであろうか。少なくとも君達の就職活動の際、厳しい現実(じつじ)に直面した者は少なくないであろう。不運だったともいえるが貴重な実体験として将来に生かすことを考えてほしい。経済にも人生にも波がある。「失意(しゆい)泰然(たいぜん)。得意(ていぎ)淡然(たいぜん)」

組織あつての個人ではなくて、まさに個人自身の真価(まか)が問われる時代が近いにきているのではないだろうか。そのとき個人は自らの持ち味を認識し、育て生かしてゆき、自己のポジティブ・アイデンティティを示すことができます。大切になる。故(ゆ)じ・F・ケネディ米大統領にならえば、「組織が君たちのために何をしてくれるかを問うな。君たちが組織のために何ができるかを問いたまえ」ということになる。だからといって、私は会社人間、組織人間のすすめをしているわけではない。組織から離れた個人の充実した時間は大切だ。それあつてこそ、心の生活は豊かになる。君たちの人生に幸多きことを。

(こむら・しゅういち)

変動の時代の担い手となれ

理学部長 ◆ 西川 恭治



理学部を卒業、または理学研究科を修了する諸君、まずは卒業、修了おめでとう。

諸君が広島大学に在学していたこの数年間に、時代は大きく変化した。ヨーロッパではベルリンの壁が取り壊され、世界は新しい協調の時代に入る一方で、民族間・宗教間の争いが激しくなってきた。また、日本では、いわゆるバブルが弾け、バブル時代の歪みの影響が露呈され、新しい政治体制が発足したものの、深刻な不況に突入している。

そういう時代の変化の中で、大学をめぐる情勢も大きく変化しつつある。諸君が学んだ広島大学も、これから大きく変わろうとしている。

しかし、どんなに時代が変化しようとも、諸君が学んだ「理学」という学問は不変である。もちろん、個々の研究内容は変化してきているが、その基

礎となる概念、諸君が学んだ基礎知識は、人類の知的遺産として永劫不変のものである。その普遍なるものを学んだ諸君に対して、私は次の二つのことを念願したい。

一つは、諸君が学んだものを大切にしつつ、その上に、大きく変貌しつつある時代に、諸君の斬新な発想と柔軟な思考とをもって、様々な場面で臨機応変に應用して行く心がけを持つことである。そして、今一つは、これから諸君が経験するであろう困難な状況のもとで、次の時代を背負って立つ若者として、逆境に耐えて強く生き抜く精神力を持ち続けていくことである。

諸君が、この激動の時代に、それぞれの立場で諸君自身が果たせる役割を考え、強く真摯に生き続けていくことを願って止まない。

(にしかわ・きょうじ)

人間を愛することから始まる

医学部長 ◆ 川崎

尚



弥生三月という言葉の響きには若者の息吹が感じられる。まさにその季節を迎えて、広島大学を巣立つ医学部医学科、総合薬学科の諸君に、心からおめでとうと申し上げる。

この六年ないし四年間は、国の内外ともに実に激動の時代であった。ベルリンの壁の崩壊、ソビエト連邦の解体、自民党政権から連立与党政権への交代

など。医療関連分野においても、エイズの世界的な拡散、脳死と臓器移植をめぐる討議、分子遺伝学の進歩に基づく遺伝子治療法の試行など。どの社会情勢の変化も、科学の進歩も、すべて人間の営みの結果である。そこに垣間見ることができるのは、人間の愚かさ、哀しさであり、面白さ、素晴らしさである。

医学科、総合薬学科卒業生の諸君が進む分野は、すべて人間が対象である。ある限られた生物学的なヒトを対象とする分野を除き、ほとんどは心を持つ人間を相手とすることを銘記してほしい。

進路の多様化を願って

歯学部部長 ◆ 二階 宏 昌



歯学部を卒業、そして歯学研究科を修了した諸君に、まずは衷心よりお祝い申し上げます。

近ごろ、きわめて残念に思ったのが、医師に信頼を置く国民の比率が二十パーセントかに激減したという調査結果であり、歯科医師として例外ではない。

これには様々な理由が考えられ、医道を外れた行為の少なからぬ事実とも無関係ではないが、何よりも国民の価値観の多様化、歯科医療の高度化を求める患者の意識に、歯科医師の意識が追いついていない実状を認識する必要がある。大学が学部教育の改善を迫られ、本学でも今年の入学生より新カリキュラム実施に至った根拠でもある。

大多数の諸君は臨床医を目指すわけだが、疾病構造の変化と歯科医学の急速な進歩に対応しつつ、二十一世紀医

諸君の前途は必ずしも平坦ではないかも知れない。しかし、このような困難は実は大した問題ではない。諸君には人間を病から救うという他の職業にくく人にはない使命感があるはずであるから。

それはまず人間を愛することから始まる。

(かわさき・たかし)

療の担い手たりうるかどうかは、来る何年間かの臨床研修にかかっている。その際、オーラル・メイシン、いわば硬組織から軟組織への円滑な変化も重要課題として指摘されるところである。

先の調査で患者の大病院志向も明らかとなった。病院勤務歯科医は席も数も極めて少ない現状にあるが、開業医では対応できない医療を機能分担する病院歯科口腔外科の充実も、当面の課題とされる。歯科医院の開設ばかりが進路ではないことを知ってほしい。

(にかい・ひろまさ)

友

工学部長 ◆ 佐々木 和夫



諸君は今晴れて学窓を離れようとしている。かく言う私もまた、四十一年にわたる大学教員の生活を終えようとしている。今年の送別の辞は、私自身に対する思いも含めた、聊か独り言めいたものになる。

卒業とか、退職とか、人生の一つの転機にあたり、友だちって何だるうと考えてみるのも、あながち無駄なことでもあるまい。答えは一つではなからう。知性も、生活経験も各人各様なら、答えもまた各人各様なはずである。

ここでは一つの材料を提供しよう。石川啄木の歌の中にこんながある。「いつとなく我れに歩み寄り手を握りまたいつとなく去り行く人々」

この歌、哀調が漂っていて、卒業のような慶事にはふさわしくないかもしれないが、来し方を振り返ってみると妙に合点が行くもので、私の好きな歌

の一つである。

だがよく考えて見ると、一方的な見方だとも思う。それは、手を握りに来たのも、離れて行ったのも相手の所為にされているからだ。現実にはそんなことはあり得ない。手を握り合った約半数は、啄木の方から求めたものだったに違いない。物理で習った粒子の衝突を思い浮かべたらすぐ判る。屁理屈を並べるつもりはない。人生での離合集散を歌い上げて見事な歌には違いないが、一歩下がって思い直すと、責任の半分は自分にもあると言いたいのだ。啄木の歌にも共感するが、論語の一節もまた真実を伝えている。

「友あり遠方より来る、

また愉しからずや」

いつの日か、また杯を傾け合おう。
(ささき・かずお)

表裏一体 — 客観性と主観性 —

生物生産学部長 ◆ 畑 中 千 歳



卒業生、修了生諸君、おめでとう。暗れやかな門出を迎えた諸君に心から祝意を表し、併せて一言所感を述べ、贈る言葉としたい。

現代社会が、自然科学も社会科学もそうであるように、客観性を重視する

世界であることに異議を唱える人は少ないと思う。諸君が生物生産学部にあつて学び得た知識の多くは、科学技術の修得であったかと思う。このことは現代科学の特質からして当然の帰結ではあるが、本来、大学で学ぶべき事柄の

最重要課題は、物事を処するための考え方を身につけることである。このことを思うと、教える側の責任として、諸君に對しいささか申し訳なく思う次第である。

私はかつて新入生に對して、自らを知り、自ら学びとることが学問における最も大切な事柄であると言ったことがある。主体性を持つことも通じるが、主観的な世界の意義について、諸君にもあらためて考えてみて欲しいと願っている。人生の達人になれと願っているのではないが、鈴木大拙(仏教

デルタの説

学生部長 ◆ 三 好 信 浩



本学の前身校のひとつである広島高等工業学校の校友会誌は「デルタ」と称した。その第一号(一九一二年)の創刊の辞は、「埃及のピラミッドを見よ。あの高大な帝塚が数千年の星霜に打ち勝つて、今尚、がっしりと小ゆるぎもせず屹立していることの出来るのは、其処にどういう訳があるのであるうか」と書き出し、そのわけは、ギリシア文字のデルタ(等辺三角形)から成る正四面体の構造にあると説く。そのうえで、「知・情・意の三方向が悉く立派なデルタを形取っていないならばならない」と主張した。

歴史の古い熊本高等工業学校長から転じて開校の大役を果たした川口虎雄校長は、工業の「学術技芸」に加えて、人格や品性の教育を重視したが、その

学者)によると、さとりは純粹主観であつて、決して客観的に得られるべきものではないらしい。

客観性と主観性、常識と非常識、本音と建前、等々。世の中には、表裏一体として考えるべきことのいかに多いことか。

諸君にとつて本當の勉強(人生勉強)はこれから本番であり、創造力豊かな柔軟な精神の持ち主である諸君に、私はいささかも不安を感じてはいない。諸君の健康と存分な活躍を祈つて止まない。
(はたなか・ちとし)

創業の理念がデルタという言葉にこめられていた。

これから社会に船出しようとする若い諸君にとつて、時には一点集中も必要となるであろう。しかし、さらに二点を加えて三点にしたなら、点は面をなし安定もよくなる。その三点は、知・情・意でもよければ、徳・知・体でも真・善・美でもよい。いかなる価値を点にし、いづれにウエイトを置くかによつて個性が生み出される。個性とは、各自の選ぶ価値ある点の独自の統一性を意味する。その統一を得るためにデルタの発想は重要である。

デルタの街ひろしまからの船出を祝福したい。
(みよし・のぶひろ)